

「人生の交差点」～無料のタウン誌です。ご自由にどうぞ



**2024年冬・79号**

信条・世に媚びず ・枠にとらわれず  
・言いたいことはハッキリ言おう

発行/馬場 雅夫  
FAX: 06-7879-6372

〒110-0015  
東京都台東区東上野 3-26-10 FC204号

URL: <https://lifecrossing.ne.jp/>  
E-mail: [info@lifecrossing.ne.jp](mailto:info@lifecrossing.ne.jp)

人生・生活・命の交差点/季刊(創刊2001年)



イスラエルの壁 筆者・杉本健司氏撮影(本文7ページ参照)  
キリストの生誕地ベツレヘムからエルサレムに至る道もこのような巨大な壁が回っていた。カザも同じなので『監獄』と言われる。

当タウン誌への問い合わせ、原稿に対するご意見は  
[info@lifecrossing.ne.jp](mailto:info@lifecrossing.ne.jp)へ

**CONTENTS**  
世の中・社会・文明・歴史・家族・  
自分のことを書いています。

視点 Life Crossing  
    二大政党制はどこへ  
        新潟県議会議員 杉井 ひとし…2

中央アジア4ヶ国周遊10日間の旅(下編)  
    シルクロードの十字路  
        兵庫県加古川市 藤田 新三…3

敗戦国の原点を踏まえ  
    歴史に向き合う日々  
        映画プロデューサー 矢間 秀次郎…4

第9回 宇宙生命哲学者大いに語る  
    「ガイア理論」と「宇宙生命哲学」  
        北里環境科学センター名誉顧問 伊藤 俊洋…5

長岡大花火大会から思う事  
    —長岡空襲と花火大会—  
        新潟県三条市 丸山 善三…6

イスラエル再訪の旅  
    東京都目黒区 海外旅行家 杉本 健司…7

歴史と悲しみは共に疾走する  
    東京都北区 奥寺 大輔…8

リベラルはいつまで保守政権の存続を許すのか?(下編)  
    立憲民主党は政権を担える党か?  
        東京 三田 栄考…9

純粹まっすぐ君では  
    支持が広がらない。逆効果かも…  
        貴澄 ハル…10

多数決は民主主義か…?  
    信州小海町 地域づくりボランティア八峰村  
        村長 渡辺 均…11

幕末の会津藩主が  
    その生涯を悔やむ(上)  
        幕末会津藩主 松平肥後守容保独白…12

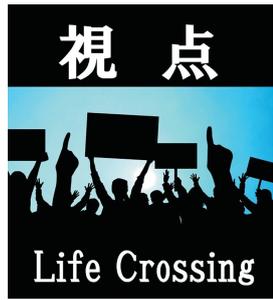
日本国大丈夫でしょうか  
    東京都品川区 大山 桜…13

生徒を惹きつける英語授業の考察  
    岡山県 高梁市立川上中学校教諭 赤木 伸…14

居場所  
    山中 登代子…15

余録/編集後記……………15

立憲躍進にも危機感しかない  
    在関西議員秘書…16



# 二大政党制はどくらい

新潟県議会議員

杉井 ひとし

十月二十七日投開票の第五十回衆院選で、新潟県は五つの小選挙区すべてで立憲民主党候補が当選した。自民党や自民党系は全敗。比例代表からの復活も一人だけで、比例単独と合わせても新潟県の自民党衆院議員は選挙前の七人から二人に減った。

「あの田中角栄元首相の自民王国でよく頑張ったね」。ほめられて浮かれていると、痛い目に遭う。十五年前、平成二十一年の衆院選でも新潟県は当時、六つあった小選挙区すべてで民主党候補が当選した。

その後、民主党政権が誕生したが、消費税増税を含む社会保障と税の一体改革をめぐって党が分裂。三年後の衆院選では新潟県の小選挙区で自民党が全勝、民主党候補は全敗、比例復活も二人にとどまった。今回も野党が慢心す

ると同じことの繰り返しとなりかねない。

田中元首相のころと、いまの自民党は違う。「自主憲法制定は自民党の党是」などという自民党議員もいるが、自民党が昭和三十年に制定した『立党宣言』にも『綱領』にも『党の性格』にも自主憲法制定や憲法改正の文字はない。「党の使命」によりやく「現行憲法の自主的改正を始めたとする独立体制の整備を強力に実行」が出てくる。それも「国民道義の確立と教育の改革」「政官界の刷新」「経済自立の達成」「社会福祉の建設」「平和外交の積極的展開」のあと、ようやく六番目の課題としてだ。憲法改正を最重要課題としていたわけではなかったのだ。

実際、自民党内で「保守本流」と呼ばれてきたのは軽軍備、経済復興優先の吉田茂元

首相とその路線を受け継いだ池田勇人、大平正芳各氏などだ。護憲派だった田中氏もこの系統に入る。自民党は平成十七年に『立党五十年宣言』や『新綱領』『新理念』をまとめた。『新要領』で第一に掲げたのが「新しい憲法の制定を」。当時の総裁は小泉純一郎首相で、これ以降、自民党主流は宮沢喜一氏などの護憲派から森喜朗、安倍晋三各氏などの改憲派に変わっていき

く。ことし九月の自民党総裁選では石破茂、高市早苗、小泉進次郎、林芳正、小林鷹之、茂木敏充、上村陽子、河野太郎、加藤勝信の九氏が立候補したが、全員が改憲派で、護憲派はいなかった。かつて護憲派と改憲派が党内で競い合った自民党だが、いまは右に大きく旋回し、党がまるごと改憲勢力となった。これに

対して護憲勢力は相変わらず小党分裂状態を続けている。平成六年、細川護熙政権は政治改革関連法を成立させた。衆院選はひとつの選挙区で三人から五人を選ぶ中選挙区制を廃止し、一人だけを選ぶ小選挙区制と比例代表制を組み合わせた小選挙区比例代表並立制に改めた。当時、衆院に議席があった政党は自民党、日本社会党、新生党、公明党、日本新党、民社党、日本共産党、新党さきがけ、社民連の九党だった。「中選挙区制では同じ選挙区から同じ政党の候補が乱立する。



派閥政治や金権腐敗政治を一掃し、日本も米国や英国のような政権交代可能な二大政

党制とすることで政治を活性化させる」というのが選挙制度改革の目的だった。あれから三十年。今回の衆院選で小選挙区比例代表並立制を十回繰り返したことになる。

今回、衆院に議席を得た政党は自民党、公明党、立憲民主党、日本維新の会、れいわ新選組、日本共産党、参政党、日本保守党、社民党の九党だった。「二大政党を目指す」はずだったのに、中選挙区制だったころとまったく同じ数の政党が乱立している。改憲勢力には自民党との連携に前向きな小政党もある。

今回の衆院選で新潟県の野党が全勝できたのは、野党共闘をかううじて維持できたからだ。共産は立民候補の選対には入らなかったが間接的に支援した。自民党は名実ともに改憲政党となり、それを補完する保守政党もある。改憲派はすでに大勢力となっているのだから、護憲政党も改めて連携を模索し、勢力の結集を目指さないと改憲勢力に押し切られてしまう。「二大政党制」の目標をあきらめるべきではない。

主筆の吉田氏が高齢の為に半分引退されました。これまで2頁は吉田氏の担当でしたが、今後『視点』として交代制とします。ですから、本誌としての主張ではありません。書き手の自由な論じる場です。本名、筆名、匿名、名無しも可。どなたでも次号、次々号に名乗りを上げて下さい。場合によって、事前にご相談の上、投稿原稿を転用させて戴くこともございます。



# 敗戦国の原点を踏まえ

## 歴史に向き合う日々

矢間 秀次郎（映画プロデューサー）

はじめに

「権力の道具」としての歴史

いつの世も、歴史が人を磨く。とくに、人生の十字路口で迷うとき、歴史の道標を欠かせない。しかし、小さな自分史ですら不都合な記憶がうすれてしまう。自己防衛の本能がはたらき、己を潤色してしまうからである。鋭く内なる省察が問われる。

いわんや、教科書やメディアが喧伝する「国家の歴史」には、からくりが内包している。歴史が権力の道具として巧妙につかわれ、疑似歴史が多い。虚心に自分史の一端をひらく。

敗戦の宴に

国破れて山河在り

かつて大阪空襲で罹災し、徳島県三好郡三繩村へ疎開した。1945年8月15日昼前、母たちに連れられ岩だらけの道を急いだ。国民学校校

庭にしつらえたラジオで、玉音放送を聴くためである。

「朕深ク世界ノ大勢ト帝國ノ現状トニ鑑ミ非常ノ措置ヲ以テ時局ヲ收拾セント欲シ……」との昭和天皇の声は、ノイズで母ら大人たちも、聞きづらかったらしい。もちろん、6歳前の幼い筆者には意味不明ながら帰途、野辺送りの葬列のような静寂が漂っていたのを記憶している。

その日の夕刻、古老たちが獲ってきた鮎の塩焼きがお膳に盛られ、敗戦の宴になった。兄たちは鮎を頭から骨ごと口にしていたが、幼い筆者には生苦く川魚の珍味がわからない。

厄年の夏、つれあいと二人の幼子連れて、その疎開先へ「感傷旅行」をした。吉野川上流の食堂で鮎定食を食したが、香魚といわれる鮎に昔の香りが無い。ガイドの伯父曰く「巨大ダムができた



シンポジウムで講演する矢間さん

けん、もう天然鮎が獲れへん」。ダム放流のシルトで白濁した渓谷の奔流が恨めしい。

「アジア太平洋戦争敗戦記念8・15シンポジウム」を開催

旅路の帰りに疎開先の廃屋に立ち寄った。離れの五右衛門風呂跡を覗くと、屋根の梁に太い青大将が歓迎、子らの悲鳴で不意に怖い古老たちの声が甦った。湯煙の風呂場での論争に、震える手でオチンチンを握りしめた戦慄のひとときを想い起した。

「進駐軍が来たら、男衆はキンタマ抜かれるぞ。オナゴらは玩具にされる」、「アホな、民主主義の国だ、あらへ

ん！」「わいらも半島や大陸でやったことやで」枯れ木を釜口にくべ、奥の火に吹き竹を使いながら涙がにじんだ。

それから79回目の8月15日が巡った。政府は「終戦記念日」として、全国戦没者追悼式を日本武道館で開催。筆者の市民環境団体では、「敗戦記念日シンポジウム」を催した。パネラー・三宅千晶・堀尾輝久・花岡蔚さんらと歴史の真実を探り、その余韻の中で詩人・高橋嬉文さんが詩集『九条川』を朗読、末武あすなるさんが三線を弾き、頬がゆるむ。

おわりに「亡国への前奏曲

敗戦は歴史的事実である。しかし、まだ戦争は終わっていない。次の理由から「終戦」は疑似歴史の典型と断ずる。①いまだに駐留米軍基地（専用施設263・2km）が国内に存在する。②120万



著者近影 撮影：かさこ

柱の未帰還遺骨が遠き国の野辺に晒されている。③生還した兵士が少なからずPTSDを患い次世代へ負の連鎖がつづく。本土空襲の犠牲者（広島・長崎の被曝者を除き）が何の補償もされていない。

また、アジア諸国の戦没者は2000万人に及ぶ。大東亜戦争や太平洋戦争の呼称で、歴史を歪曲してはならない。「アジア太平洋戦争」という大局観で平和を希求することが、「敗戦国日本」の原点である。虚構の歴史によりかかって、「戦争反対」、「9条守れ」と唾を飛ばし、己の幻影に酔っていないかとの自戒がほしい。軍靴の響きが亡国への前奏曲になって久しく（いつか来た道）を転げ落ちている……。

### 矢間 秀次郎（やざま ひでじろう）プロフィール

1940年、大阪に生まれる。1972年、三多摩問題調査研究会設立に参画、ATT流域研究所を経て現在、千曲川・信濃川復権の会事務局長。長編ドキュメンタリー映画製作に『シロウオー発立地を断念させた町』（2013年、第3回江古田映画祭観客賞受賞）、『いのちの岐路に立つ〜核を抱きしめたニッポン国』（2017年）、『悠久よりの愛—脱ダム新時代』（2021年、第39回日本映画復興奨励賞受賞）

## 宇宙生命哲学者大いに語る(第9回) 「ガイア理論」と「宇宙生命哲学」

北里環境科学センター名誉顧問  
伊藤 俊洋

### はじめに

地球そのものを1個の生命体とみなす「ガイア理論」を提唱した英国の環境科学者、ジェームズ・ラブロック博士が2022年に103歳で亡くなられた。

ガイア理論とは、「地球の自然環境と、生物が相互に影響を及ぼし合いながら、自己調節システムを作り上げている」とする説である。一方、「宇宙生命哲学」でいう「地球環境生命体」は、地球環境と生命現象が一体となつて一つの生命システムを構築して

いるとする概念である。今回はこの2つのシステムの違いについて、「原発」への対応を軸に解説してみたい。

### ガイア理論

1960年代に、J・ラブロックによって提唱された理論で、地球という1つの惑星が、自立した意志を持って、自己の自然環境を制御しているという、極めて斬新な考え方である。このような発想は突然出現したのではなく、その先行研究は古くから存在したが、学問の進化と社会情勢がうまく合致して、センサーショナルに受け入れられた。

この考えは、後に地球システム科学や生物地球化学などの新しい学問分野を生み出し、文学や映画などにも大きな影響を与えてきた。一方では、科学的な検証が欠落した概念であるとの批判もあり、距離を置く科学者も少なくない。

この理論は、地球という惑星と、そこに生息している生物群を、それぞれ独立した実体と捉え、それぞれが互いに影響し、融合しながらシステムを構築しているとしてい

る。時には、この両者が対立関係になることもある。

1950年代以降の地球環境の温度上昇は、人間による行き過ぎた経済活動によるもので、化石燃料の使用で地球温暖化ガス(二酸化炭素)が増加したことによるものである。地球の過度な温度上昇は、地球にとって深刻な痛み(傷)なので、地球はその痛みを耐えられず、復讐として、異常気象が起こっているという主張が、ラブロックの「ガイアの復讐」である。

このままの速度で環境温度が上昇すると、21世紀末には、地球上の緑地はほとんど砂漠化し、人類の生息地域は僅かに残された局地に限られると警鐘を鳴らしている。2004年に、その解決策として「原子力」の利用を推奨し、2006年の来日の際には、異常気象に対抗するには、原子力発電を最大限利用するべきだと力説し、日本の原発政策にも大きな影響を与え、地球上での「原発」敷設を大きく推進させた。

### 宇宙生命哲学の概念

すべての生物は、地球環境

から生まれ、死ぬと地球環境へ戻ってゆく。すべての生物は、地球環境を介して、過去から現在へ、さらに未来へとつながる時空を超えた地球環境生命体(宇宙船地球号)と考えられる。生物の死は、常に新しい生命に生まれ変わることである。そして、生命進化の過程で誕生した人類は、知識の蓄積を可能にし、人類の思考を支援する強力な道具として、科学・技術を構築した。



ラブロック博士(2002年3月)

この宇宙船地球号の行方は、人類が築いてきた科学の力によって導かれる。地球上で起こる化学反応は、原子間の電子の状態の変化なので、人類の現在の科学技術で操作し、制御することが可能だ

が、原子核反応を制御することは不可能である。そのことから、「宇宙生命哲学」では、「原発」は宇宙船地球号にとって絶対悪であると断定する。

近年、多くの著名な科学者が、地球温暖化や異常気象の解決策として、核エネルギーの利用を推奨してきた。

2010年、故ステイブン・ホーキング博士は、核融合が実用的なエネルギー源になることを望むとTime誌で発表し、火星への移住を推奨していた。

2000年代、故J・ラブロック博士は、原発の推進に力を注いだ。スペースXのイーロン・マスク氏は、地球上での経済活動に限界を感じ、火星移住をテーマに、より効率の良い富の収奪を目指している。

これらの発想は、地球が有している潜在的な力を十分に理解しているとは思えない。現在の宇宙で、人類が生き残れる場所は地球の他にどこにもない。我々人類は、もっと賢くならなければならない。

# 長岡大花火大会から思う事 —長岡空襲と花火大会—

新潟県三条市 丸山 善三

今年も79年目となる8月15日の終戦記念日を迎えた。新潟県長岡市では、8月2日と3日盛大な祭りが、開催された。つとに有名である日本三大花火大会の一つでもある長岡市大花火大会である。長岡の花火大会が他の大会（大曲と土浦の花火競技大会）と異なっているのは、いわゆる花火そのものの業を競い合う競技大会ではなく慰霊と平和への念が込められた復興祈願の花火大会ということである。

昭和20年の8月1日は、79年経っても長岡市民にとって決して忘れることが出来ない日なのである。大東亜戦争末期のアメリカ軍による長岡大空襲である。それは、市民が眠りに就こうとする、午後9時過ぎ長岡市内に空襲を警戒する警戒警報が鳴り響いた。午後10時26分、警戒警報が空襲警報にかわると4分後には、

米軍長距離戦略爆撃機B29が絨毯爆撃の雨を降らせ市内は、一面焼け野原となった。大規模な無差別爆撃である。空襲は、その後100分間に及び、市街地の80%が焼野原となつて、子供280人を含む1488人の尊い命が失われた。

当初、米軍の軍事目標は、通常爆撃による軍事施設、工場等の攻撃であったが、やがて焼夷弾を使いすべてを焼き尽くす無差別爆撃へとエスカレートしていった。それら長岡空襲をはじめ日本本土の空襲で多用された爆弾が焼夷弾である。焼夷弾は、爆風や破片の飛散で対象物を破壊させる通常の爆弾とは異なり攻撃対象を発火させる火災発生を目的とした。焼夷弾で空爆された多くの都市は焦土と化し、焼夷弾による日本本土の攻撃に対して日本の軍隊は、ほとんど無力に等しかった。空爆での衝撃から最低限の防

御とされていた防空壕は、焼夷弾には効果を発揮するどころか壕内は、蒸し焼き状態となった。長岡空襲では、防空壕が集中していた「平潟神社」での死者が最も多かった。更に被災者は高温に耐えかね水を求めて河川になだれ込んだ。爆撃地近くを流れる「柿川」は、丸焦げの死体で溢れた。



長岡大花火大会の風景

さて長岡が、爆撃される5カ月前の2月25日、焼夷弾による本格的な東京への空襲が実行されていた。その僅か半月後、3月10日、東京の東側、下町を中心に焼夷弾の雨を降らした。この空襲により一晩で7万2000人の尊い命が犠牲となった（東京大空襲）。

3月10日の東京大空襲の成功から米軍の方針は夜間焼夷弾空襲へと舵をきった。これ以降、長岡市をはじめ横浜、名古屋、大阪、神戸といった大都市は、焼夷弾による縦横無尽の無差別爆撃で海と変わり果てた。そこには祖国のため戦う兵士の姿はなく、逃げ惑う一般市民の姿と炎に飲み込まれていく日本の街の光景しかなかった。

実は、アメリカ軍は、日本本土攻撃のための焼夷弾を密かに開発していた。それは、P-38を束にして詰め込んで地上に落下すると火を放つように工夫されていた。（M69油脂焼夷弾と呼ばれる）更に効力を調べるために木造建ての日本家屋を想定した焼夷弾の延焼実験も用意周到に行っていた。これら焼夷弾による本格的な本土攻撃は、2月25日の東京空襲で実行された。東京空襲以後の焼夷弾爆撃の指揮を執ったのが第二一爆撃兵団の司令官カーチス・ルメイ少将である。彼は、命中精度を上げるため2000メートルの低空で、しかも夜間に行う攻撃作戦を提唱しそれを実行した。これ

は、日本上空独特の「ジェット気流」を避けるためにも有効であったと共に当時の日本軍は、地上から対空砲火する迎撃力も無かったのである。東京空襲での手ごたえを得てから各地の都市への空爆が頻繁に実行された。さて長岡爆撃後の中小都市への焼夷弾攻撃は八王子、富山、水戸と次々に焦土化し数日後、佐賀、前橋、鹿児島、今治等が攻撃された。そして、8月6日広島、9日長崎と二発の原子爆弾が投下された。更に原爆投下後も焼夷弾による空襲は、15日終戦日まで繰り返され続けた。

毎年盛大に開催される長岡の大花火は、現在、「復興祈願花火フェニックス」として全国で親しまれている。しかしながらその華やかさの裏に歴史の重い裏が重ねられていることを忘れてはならない。



# イスラエル再訪の旅

東京都目黒区 海外旅行家 杉本 健司

私は一人旅が好きで海外は124ヶ国（北朝鮮・南極含む）へ行った。イスラエルは昨年1月と今年7月に行った。昨年は羽田発パリ経由で、今年がアムステルダム経由でテルアビブからイスラエルに入国した。

2回とも入国前のパリとアムステルダムの出国審査が厳しく、私のパスポートは8年目なのでロシア等のビザがあり各国の入国のスタンプがあり質問された。羽田で預けたカバンは預かったものはあるかと2回とも質問され検査なし。テルアビブでの入国は写真を撮られただけで入国のスタンプも押すことはなかった。今年がイスラエル入国の外国人は私ひとりだった。

ホテルは昨年も1週間泊まったナシヨナルホテルだ。市街地に近い。1957年ヨルダンからイスラエルに編入されたパレスティナ地区だ。昨年見れたテレビは



市内電車を待つ現地ユダヤ人。正統派の出で立ち(黒い帽子で黒い服)が多い

この歴史博物館庭園にはユダヤ人7000人に日本への

システム上見れなくなっていた。ガザでの報道をめぐりカタルのアルジャジーラをイスラエルが止めたらしい。東エルサレムの新市街地は昨年少し見られたが、黒い帽子に黒い服の正装ユダヤ人が今年は目立った。ホロコースト歴史博物館へのバスの写真ように。

通過ビザを発行しユダヤ人をナチスから救った、杉原千敏さんの植樹された木がある。受付で東京から来たと言うと喜んでくれた。

テルアビブへは電車で行った。電車の各駅には空港にあるX線検査があった。昨年10月7日にハマスから拉致されたユダヤ人の開放を求めるポスターが貼ってあった。そこには12歳の女の子、3歳の男の子の写真があり目を引いた。



ハマ스에連れ去られた人々(人質)の解放を祈り、訴えるポスター

特に昨年と違っていたのは、制服を着たイスラエル軍や警察が沢山いて、さらに私服でポケットからカービン銃やピストルを覗かせている人

を見かけた。一般人も所持できるらしい。電車で会った兵士はカービン銃の弾の入れ替えも見せてくれた。

今年がタクシーを貸し切った。ヨルダン川西岸と死海に行った。ホテルを朝10時に出発、途中見たイスラム教口マ(ジプシー) 住居は悲惨だ。草木がない赤茶の土地にバラック建だ。水や食料はどうしているのかわからない。ヨルダン川は思ったより小さく、赤茶の水で、対岸にヨルダンの国旗が見えた。ちょうどイスラム婦人が沐浴していた。川に顔を近づけるだけだ。銃を首から下げたイスラエル兵が見ていた。暑いので冷房の機械が兵士用に置かれていた。

死海へは90シケル(4500円)の入場料を払った。10年前にヨルダン側で死海に浸かったが、ガイドは失明の恐れがあるので絶対にやめると言ったがどんな感じか浸けてみた。口はしょっぱく、目が痛く開けられない。慌ててシャワーを浴びた。通常の10倍の33%の塩分があるので、ぶかぶかと浮遊体験ができた。死海はマイナス440m

低地にある。ホテルに午後2時に帰った。タクシーの運転手とガイドに400シケル(2万円)を払ったが、貴重な体験ができた。タクシーのドライバーから来年は北部のゴラン高原やガリラヤ湖を勧められた。「平和になったらガザにも行ってみたい」と私が言うと、平和になっても絶対に行かないと言われた。51年前27歳の時に南アフリカに行った。

アパルトヘイトで道路と空気の共用で、全て白人用、非白人用に分かれていた。公園のベンチもだ。住む場所を追われているパレスティナ人が非白人(アフリカ人・インド人等)だと思出した。日本人は経済的な理由で名誉白人だった。

世界年鑑2024(共同通信社)によると、イスラエルの住民はユダヤ人74%、パレスティナ人などアラブ系21.1%とある。

参考書…ダニー・ネフセタイ氏著「国のために死ぬのはすばらしい？」(高文研)「イスラエル軍元兵士が語る非戦論」(集英社新書)

私は55年前に産経新聞の外信部記者と『海外一人旅の会』を結成し情報交換をしました。いまのようにインターネットが普及し、誰でも簡単に情報が取れ、気軽に海外へ旅行できる時代ではありませんでした。逆にそんな時代であったからこそ「海外で買う激安航空券」「ヨーロッパ格安旅行」等をテーマとする書籍を8冊ほど執筆する機会にも恵まれました。興味ある方は [kenjisugimoto@hotmail.co.jp](mailto:kenjisugimoto@hotmail.co.jp) へ「ライフクロッシングで見た」とメールを頂ければ幸いです。

## 歴史と悲しみは共に疾走する

東京都北区 奥寺 大輔

今年の8月15日、靖国神社は大勢の人々でごった返していた。ただ立っているだけで汗が吹き出す猛暑日だった。

旭日旗を背に旧日本軍の軍服を着た人達が「天皇陛下万歳！」と叫んでいて天候とは違う意味での熱気が漂っている。参拝に向かう人々は長蛇の列をなし戦争で亡くなった犠牲者達を弔う現代人の心情が感じられた。

靖国神社の境内には戦争関係の資料を展示する建物がある。遊就館だ。そこでは「兵食」という戦時中、兵士たちが食べていた料理にまつわる資料の展示会が行われている。陸軍のごちそうといえはカツレツ。海軍の兵食の中ではカレーが特においしそうだった。硫黄島から発見された栗林中将が食べたかもしれない乾パンはやけに生々しかった。発掘日が2000年以降らしく戦争遺品の発掘調査の遅れが感じられる。

特別展のスペースは次第に

出口に近づき、最後には兵士直筆の手紙の展示を見た。妻に宛てた手紙を読んでいると不覚にも僕は涙ぐんでいた。



靖国神社境内の遊就館

子供の安否を気遣い成長を楽しみに待つ文章からは家族への愛情が感じられ「この人も本当はもっと生きていたかっただろうに」と考えた。僕と大きく違う年齢の若者達の死因が「戦死」と書かれた資料を読むとさらに胸が痛む。数えきれないほどの人々の犠牲があつて現代社会は成り立っている。

僕の両親は韓国人で僕自

身、10歳までソウルで暮らしていた。家庭の事情があり10歳より日本で生活を始め、今年で22年になる。8月15日は韓国でいえば「光復節」と呼ばれる、日本からの植民地解放を祝う日である。8月15日を迎える度に僕は複雑な心境になる。日本にとっては敗戦を迎えた日の屈辱が甦るとともに犠牲者を弔う日であるが一方で韓国にとっては喜ばしい日でもあるのだ。

「マクベスは小さいが大きい。ふしあわせだが、ずっとしあわせ」（訳：木下順二）  
文豪シェイクスピアが戯曲「マクベス」第1幕第3場の荒地の場面で綴った魔女のセリフである。物事はそのほとんども多面的で真実は矛盾を抱えているものだ。

僕は僕なりに日本と韓国の歴史の狭間で、目には見えないうが両方の歴史を背負って現代を生きている。日韓の暗い歴史を思うと鬱々とした気持ちになる。旭日旗を見ると心の奥底がソワソワする感覚に陥る。僕の祖先が感じたかもしれないことを僕も感じているからなのかもしれない。言語も時間軸もまぜこぜになっ

ている今この瞬間を僕は生きていく。

帰宅後、しばらくは深い悲しみに襲われてソファに腰かけたまま床を見つめていた。あまりにも多くの心の傷を体験した。悲しみを癒そうと思いい、部屋に置いてあるアップライトピアノの前に座ってモーツァルトの旋律を弾いた。ピアノソナタイ短調。丁度、彼の母親が亡くなった時期に書かれた作品だ。

文芸評論の神様・小林秀雄はモーツァルトの音楽をこう評した。

**「モーツァルトの悲しみは疾走する。涙は追いつけない」**

モーツァルトの音楽は悲しみも喜びも含めたすべての感情を「プールで遊びまわる子供のような無邪気さ」で表現する。モーツァルトは子供のころから名声を得るために音楽家として働き続けた。個人的には彼の音楽を聴くと子供らしくいささせてもらえなかった時間を取り戻そうとするかのように感じる。その無邪気さは誰もコントロールできない大きなエネルギーを持ち聴衆

たちの心をつかんで離さない。



目には見えないが現代を生きる僕達はそれぞれの、そして共通の歴史を背負っている。その歴史は喜びばかりではなく悲しみもしばしば伴う。悲しみの歴史は通奏低音として現在という時間軸においてコントラバスのように響いている。現代社会のダイナミズムに吞まれつつ、これからも僕は時々、先人の涙を見るだろう。疾走する時間の流れに逆らい、もつと生きていたかったであろう兵士達の時間と子供らしくいたかったであろう天才作曲家の時間が交差する場所に立っている。そして時々、悲しみの出口を探す。それが今を生きるということなのかもしれない。

## リベラルはいつまで保守政権の存続を許すのか？(下編) 立憲民主党は政権を担える党か？

東京 三田 栄考



この度の総選挙に我々リベラル派のオーソドックス運動はどれだけ影響を与えられたのか？

50議席増やしたが立憲は大勝利！とは思えない。民意を一番表わす比例区の得票率は立民は前回総選挙に較べて0・6%しか増えていない。自民党の大失態があったにも拘わらずである。その自民党は550万票の26・8%減じているのに。国民は358万票の2・5倍増。

政権与党が失った信頼を野党第一党に政権を託そうと期待したわけではない。立民にその覚悟も準備もアピールもできていなかった。野田佳彦

氏を党首に選んだのは政権への一里塚にはなっただろう。が、野田党首の演説の多くは裏金問題で、具体的な胸にストリートに響く政策は余りなかった。

精々世襲議員批判くらいしかない。「立憲は我々に何をしてくれたか？」との私の息子の批判に答えを窮した。もっと個性を、特長を、国家像を打ち出すべきだ。そう言えば立憲の公約は教育、社会保障、物価についても他の野党と見分けがつかない程度だ。いや、自民党にもパケられる政策ばかり。

**だが、自民党と対等に闘えるのは立憲だけ！**

全国の小選挙区の結果を丁寧に見て気が付いた。当選した自民党に良い勝負をしているのは殆んど立憲の候補者だ。数えてみると2位立憲の比例区当選を含む32人の候補者が自公系の80%以上の得票率で、46人が以下だった。

因みに国民は3人と14人、維新は2人と13人だ。他党はゼロ。今後自民党を倒せるのは立憲しかないということだ。

自民党を更に追い込んで比較第一党になれば他党も付いて来ざるを得なくなる。その為に自民党が苦手な争点の議論を、困る法案を通して、都議選と参議院選に勝利し、27年の地方選挙に基盤を固め、次の総選挙で第一党になって、過半数の政権党をめざそう。

立憲に多少は、或いはかなり気に入らなくても、立憲を強くしつかりさせることが我が国と国民を豊かにさせる道だと思ふ。自民党や弱小野党が言えない、提案できない政策を発信すべきだ。後追いで政策を述べ立てても味も薄い。明確で具体的な政策を先に打ち出さないと他党に埋没する。

「100年後の世界連邦の建設で恒久平和を！」「国家は国民の為にある。国民の幸福は国家の繁栄だ！」「金融資産に課税を！」「年収1億円以上の超大金持ち増税分を開発途上国援助に！」「北朝鮮と国交回復を目指してピョンヤンへ飛ぶ！」「女系天皇も認めよう！」「日中首脳定期交流を図る」もう巨大野党だから手柄(成果)を国民党に独り占めされない巧みな政治的動きを

期待したい。他党が同意する法案をドンドン先手を打って出すべきだ。中小野党が付いてきたら衆議院は通る。自民党が反対したらクサビを打つことに成る。それも来年の参議員選挙までに。

ただ、円滑な政権移譲をめざすなら財界や官界に町内会までも足を伸ばし定期的な交流を図らねばならない。護憲、反原発、反戦・沖縄などの抵抗闘争だけで政権を奪えるわけではない。まっとうな政権統治ができる国民から信頼される国民政党に成長しなければ。

**共産党田村委員長のTV演説が一番納得できたのに**

現在の自民党の体質、政策、資本主義の問題点を適切に指摘し、あるべき社会像を提示するなど政治全体を理解できた。ただ、共産主義と自由は矛盾しないと強調したが、その主張を受け入れる国民はわずかだろう。共産主義と独裁とは表裏一体との感覚をくつがえすのは不可能だろう。大スクープを暴きながら80万票も減らしたのは気の毒

千番。抵抗するのが目的ならいざ知らず、国民の生活向上と平和社会建設が目的なら輝かしい歴史を継承し、党名を展開するくらいの発想転換を望みたい。共産党こそ一番真面目で正しいことを実践する党だが、世の中正義だけで勝てば苦労はしない。

れいわはその倍の160万票を増やした。小党ゆえに障りの良い、バラマキの言いたい放題で獲得議席は9名。はあて、野党共闘の一翼を担ってくれるのか邪魔するのか。

24年11月3日記



柴田勝之弁護士～衆院東京16区(江戸川区)、初選挙で当選。  
～11月3日報告会にて



市来伴子～衆院埼玉8区、20年の政治活動を活かして初当選。  
～開票の夜

## 純粹まっすぐ君では 支持が広がらない。逆効果かも…

貴澄 ハル

純粹まっすぐ君は「自分の信じた道は正しい。それ以外は間違っている」と断固主張してやまない人のことを言います。

これは左派・右派関係なしに一定数の人がいます。たとえば「原発には何がなんでも反対。平和憲法第9条を改悪しようなんてとんでもない！」と議論さえ応じない左派。前回の自民党総裁選で高市早苗を応援し「高市早苗一択、石破や小泉が総裁になれば日本が減じる！」と決めつける右派。

それぞれお仲間のうちでは大いに盛り上がるかもしれませんが、それらの主張を聞いてなびく人がどれほどいるでしょう？

以前クロッシングの投稿で左派・中間層・右派の割合は2・6・2と書きました。私の意見ではありません。昔からそう言われています。

2・2である左派・右派は、いずれも自ら問題提起し、自分たちの政治信条をしっかりと表明する立場の人々でしょう。私も保守ですので右派になります。



それでは大多数である残り6は、どんな人々なのでしょう。わたしの知り合いの女性（60歳）を例に挙げます。非常に良い人です。天災があれば率先して寄付をするし、各種ボランティアにも積極的に参加します。人の悪口も言いません。その人が自身のブログにて

「政治には疎い私でありますが…」と前置きして

「…（中略）…占い好きな私、石破氏をググってみました…（中略）…姓名判断を見てもみすと…（中略）…大吉吉相が多く出ています。人間的には信頼できるようです。

（中略）…人にも助けてもらえる運があり、成功運は持つて…（中略）…人間誰でも、良い所、悪い所はあるものですよ…（中略）…石破さんの奥様の品があつて、おだやかでかわいらしくて、性格がとても良さそうなのが顔を見て安心感しかありません。

なので…家族的な安定感が国民に安堵感をも感じさせてくれます」と石破茂総裁誕生に大いに期待しておりました。

石破に関しては「仲間を後ろから撃つ男」としてあまりいい評判はありません。いい評判どころか悪い噂ばかりです。ここではいちいち挙げませんが、政治に関心のある方ならよくご存知だと思います。

さて一般の例に挙げた婦人の話にもどしましょう。彼女は左派・右派（2・2）以外の6の範疇にいます。政治に疎く（彼女自身が認めています）、

普段はあまり関心がない。しかしボケっと生きているのではなく、自分の人生を一生懸命生きています。そんな人が圧倒的に多いのです。選挙の投票率を見てみればわかります。せいぜい50%前後ではないですか。ようは半分の人にとって政治は他人事（本当は生活や命に直結するのですが）なのです。そんな人々は極端な変化を嫌います。だから純粹まっすぐ君の主張に対して、ちよつと引いてしまうのです。

昔こんな話を聞いたことがあります。白黒はつきりつけたがるA君。完全な純粹まっすぐ君でした。弁も達者であり、たいいていの議論で相手を負かします。しかしそのA君には人望がありませんでした。

その純粹まっすぐA君に先生が「ここに黒い紙があるよね。この紙は何色かな」馬鹿にされているのかと思ったA君は「黒に決まっているじゃないですか」と言ったところ、その先生は黒い紙を湾曲させて「光のあたり用では白くも見えるし、グレーにも見える。人のもの見方ってそ

んなもんなんだよ」とA君を諭しました。A君は「そんな斜めから見ると根性が曲がっているんじゃないですか」と食い下がります。先生は落ち着いて

「君にとっては斜めから見ているように思えるかもしれないが、斜めから見ている人はまっすぐに見ていると思っ



A君はそれ以来、先生のとばを反芻し何度も試行錯誤を重ねていくうち、他人に「これが絶対正しい！」と自説を強引に主張することを控えるようになりました。そしていつの間にかA君に人がついていくようになったのです。

ちよつと話が脱線してしまいましたね。政治信条を語るのには大いに結構。でも押し付けはかえって人が逃げていきます。自省も含めて、この原稿を書きました。

# 多数決は民主主義か…？

信州小海町 地域づくりボランティア八峰村

村長 渡辺均

多数決は民主主義か…？  
という問いがある大学の理事  
長から受けた。

もちろん、民主主義の基本  
でしょ、と答えつつ、誰でも  
自明なことを、改めて問う理  
事長には、多分、別の意味が  
含まれているのだろう、と考  
えた。

案の定、理事長はデンマ  
ークの民主主義を語りだし、一  
冊の著書を譲ってくれた。そ  
れはデンマーク人と結婚さ  
れ、デンマークに住む二人の  
日本人女性（小島ブングード  
孝子氏、澤渡夏代ブランド  
氏）による「デンマークに  
みる普段着のデモクラシー」と  
いう著書で、著者は「多数決  
でものごとを決めるのは暴力  
に等しい、対話と相互理解に  
至るプロセスこそが民主主義  
だ」という考えを示し、デン  
マークの普段の生活場面で繰  
り広げられる民主主義的な暮  
らし方、教育や子育てなどを  
紹介している。



数は力、これは時の権力者  
の常套句で、力はそのまます  
正義という言葉に置き換えられ  
る。ものごとの決め方は民主  
的で平和的であらねばならな  
いが、決定に至るプロセス  
と、決定後の不断の検証に果  
たしてどこまで意を尽くして  
いるのか、大きな疑問を禁じ  
えない。決めてしまえば、あ  
とは野となれ、山となれ：  
で、為政者だけが、多数決と  
いう力を金科玉条のごとく振  
りかざし、ものごとをバツサ  
リと裁断する。

ものごとを武力（暴力）で  
決める方法が戦争である。戦  
争（暴力）は良くない、と民  
主的で平和的な多数決方法が  
考案された。しかし「多数の

判断は絶対的ではない」と、と  
いう原則が空洞化され、少数  
意見は看過される。看過され  
た考え方を何とか実現しよう  
とすると、それはテロという  
暴力に姿を変える。

かようにして少数意見は、  
過半数と言う数の論理で押し  
流され、テロは弾圧される。

少数の意向を具体的に担保  
するためには、多様性をその  
まま承認することに繋がって  
くる。「あれもよし」「これも  
よし」である。となると、ま  
とまらない、という問題が起  
きてくる。この疑問につい  
て、私は逆に「まとめる必要  
があるのか」と問いたくなる。

多様性を認めると、そこに  
は、過半数を得る、という手  
続きは困難となるが、まとめ  
る必要が無くなれば、決を採  
る必要が失われる。決断は採  
らない、下さない。そこで  
は、お互いの主張を認め合  
い、尊重し合い、そういう生  
き方、暮らし方もあるよね、  
という異域同舟型の、許容し  
合える社会づくり、人間関係  
づくりによって具現化される。

選択的夫婦別姓問題など  
は、まさにこのような夫婦、  
家族、社会づくりの典型であ

る。それは、多数決で決める  
問題ではなく、個人の選択に  
拠って決めるべき問題であ  
り、自身と同じ呼称を配偶者  
に求める人が、別姓を求め  
る人に、それは変だろ、おか  
しいだろ、と取って同じ姓  
を名乗らせる仕組みで縛るこ  
とに、どんな根拠があるとい  
うのだろうか。



八峰村の農業体験・昼食風景

豊かな社会とは、多様性を  
認め合う社会のことであり、  
GDPの数値が示すものでは  
ないし、画一的な社会関係を  
強いる社会でもないだろう。  
個人の尊厳は、呼称に表され  
る。押しつけ型で、一方通行  
型の呼称選択方式は、豊かさ

と逆行するものであり、それ  
は多数（決）の横暴でもある  
と思う。

しかし世の中には、決を採  
らねばならない事態も多々生  
じてくる。こんな時、思い起  
こす名著がある。宮本常一氏  
の「忘れられた日本人」に描か  
れた『夜なべ談義』の一節であ  
る。集落に伝わる門外不出の  
文献を著者が借り出そうと集  
落の長老に判断を仰ぐ。長老  
は住民にコトの是非を問う。  
住民は入れ替わり、立ち替わ  
り、意見を述べあい、二日、  
三日と談義が続けられ、いい  
加減、談義が尽くされ、談義  
に疲れ切ったところで裁断が  
下される。これは、かつて日  
本の集落で培われ、仕切られ  
てきた、今は忘れられ、失わ  
れた決の採り方である。賛成  
者も反対者も、最後は「もう  
いいか」という形で落し処を  
共有する。

「議論を  
尽くす」  
とはこう  
いう手続  
きのこと  
を指すの  
ではない  
だろうか。



## 幕末の会津藩主が

### その生涯を悔やむ(上)

幕末会津藩主

松平肥後守容保かたもり独白

わしは1835年に美濃高須藩(尾張藩の支藩)主松平義建の四男として産まれた。叔父容敬(かたか)が会津藩の養子として藩主に入っていたので、わしも叔父の養子となり17歳で九代藩主となった。徳川幕府から明治政府へ移る動乱の時代、幕府側の渦中にいた「悲劇のお殿様」と言われてきたものだ。

想えば文久2年京都の治安に当たる新設の守護職に就くよう命じられたことがわしと会津の運命を決した。初めは固辞したが藩祖保科正之の家訓《徳川宗家の補弼》を説かれて受けざるを得なかった。わしらは高須四兄弟と言われるほど幕末では活躍したがいずれも母は違った。兄は尾張藩主徳川慶勝、五男茂栄は高須藩主・一橋藩主、弟定敬(さだたか)は桑名藩主となり京都所司代としてわしを助けてくれた。弟は

鳥羽・伏見の戦いの後には桑名に戻れず、わしと会津籠城戦を更に函館戦争にも参加し、終結前に横浜を経て上海に亡命しおった。明治11年に父・義建の17回忌に四人そろっての銀座での写真を見ると、互いの人生を写すように違った方向を向き思っている表情をしていたな。



高須四兄弟 明治11年9月  
左から定敬、容保、茂徳、慶勝

わしは、お仕えした徳川宗家慶喜様に劣らぬ程の奇な生涯をおくることに成った。いや、30歳で戊申戦争を戦ったが維新以後は前半生を振り返る人生であった。わしは今年明治26年に人生の幕を閉じるが二歳上の慶喜様はもう10

年永生きされるのは悔いることが少なかつたからだろう。

筆頭家老の西郷頼母は守護職に執拗に反対したのでわしは已む無く解任蟄居を命じた。鳥羽伏見の戦いに敗れて江戸へ、そして会津へ逃げかえつてからは新政府に恭順を伝えたのに薩長は京都での恨みを晴らすべく攻めて来た。藩境を破られたので家中の皆々に城内に入り籠城戦に備えるように触れを出した。復職していた総督頼母は白河口で敗れ城内に帰参していた。

が、触れの日、会津鶴ヶ城の北出丸前の1700石の頼母の屋敷では気の毒な大惨事が起きてしまった。頼母の妻子・一族21人が足手間といになつてはならぬと集団自決をした。読者の皆さんもその場面を心に描いてもらいたい。広間に集まった頼母の母、妻、妹二人、五人娘、一族らが環座になつて二歳の幼子から74歳の老婆まで自害した話を聞いて藩主として嗚咽して涙した。

とりわけ13歳二女の瀑布(たき)子が辞世の下の句を「手をとりて 共に行きなば 迷はじよ」と読むと姉の16歳

の細布子(たいこ)が「いざたどらまし 死出の山道」と上の句を詠んだそう。覚悟のほど哀れである。

死に切れずに苦しんでいる細布子の部屋に土佐兵が入つて来たそう。細布子は「敵か? 味方か?」と尋ね、敵なら懐剣で戦う仕草をしたので、不憫に思い「味方だ!」と答えて介錯したそう。



自刃の間~西郷頼母邸復元・武家屋敷のひと場面

妻の千重子は飯沼家の出で甥が飯盛山で唯一人生き返つた飯沼貞吉なそう。戊辰戦争で亡くなった会津の婦女子は233名いたが、それもわしのせいだわ。

西郷頼母は籠城後も早く降伏・恭順を唱えたから、わしは抗戦派からの暗殺を恐れ、米沢藩に救援の使いとし

て逃がしてやった。

頼母は函館まで戦つたが維新後はわしが日光東照宮の宮司になると頼母を13年に彌宜として迎えて和解できた。晩年は会津で暮らし一族の分まで永生きたそう。そして会津戊辰戦争と言えば後世白虎隊の19人の少年が飯盛山で自刃が有名で観光名所になるだろう。

彼らは藩校日新館の土中二番隊42人で戸ノ口原の闘いに敗れて鶴ヶ城に戻ろうとした。年長の隊長と別れてしまったので猪苗代湖から会津地方に水を引くために掘られた戸ノ口堰を潜つて飯盛山に出た。城下の各所に火が上り落城かと思つた隊士は藩主のわしに殉じた悲劇である。

一人死に切れなかつた飯沼貞吉が近くの農婦に助けられて後年語つたのが令和の世迄語られているそう。が、先日わしが飯盛山をこっそり尋ねたら白虎隊の会が「落城誤認説は誤りで、敵に捕らわれ生き恥を晒すよりは武士の本分を明らかにする」ために自刃したとの説明文が建ててあったぞ。続きは次回に語らせてもらおうか。(続く)

# 日本国大丈夫でしようか

東京都品川区 大山 桜

私は今の課長が嫌いです。上場企業に勤めて9年目の春にその時は訪れました。

課長が変わりました。うちの部署は人の入れ替えが今まででなくて、あまり新しい人が入ることはなかったのですが、今回久しぶりに上司が変わりました。

そのことを語る前に少し私の話をします。私はとある金融機関に勤めています。一年目は支店に配属されました。当時は皆さんご想像の通り、今でいう【パワハラ上司】もいました。

理不尽に怒鳴られ、私の同期や年が近い先輩は全員やめました。

時代は変わり、うちの会社もそのような高圧的な態度をとっている人に厳しく、そのような態度をとったらすぐに異動。皆さんが思い浮かべる金融機関とは違い、クリーンな会社になりました。

ただ、今の上司は毛色がま

た違うのです。

このような俗にいうパワハラではなく、まず、半年たつのに仕事は覚ええない。「休んでいいよ！ 大丈夫！ ゆっくりと！」などと言いなながら自分は何もしない。(部下は結局自分の仕事の代わりを見つめる作業に時間を要してあまり休めない)

その二、自分を頼らないで他の上司を頼ると怒る。以前の上司にわからないことを聞き、それを元に資料を作成すると文句を言う。

その三、役員に媚びる。飲み会が一番の仕事のため、ほぼ定時で帰ります。その際にいう言葉は「会食だからごめん」一時間に一回は煙草休憩で15分。お昼休憩は毎日一時間(周りにはコンビニで済ませている人も多い)。主に驚いたのはこの三点です。

世の中でパワハラ、パワハラって言われて厳しい言葉ばかりの人って淘汰されています。

す。ところでスメハラ、アルハラなどなんでも高圧的な態度をとることがハラスメントって言われてますけど、何か違いますか？

うちの課長は上述の通り、休みにはとても寛容です。怒ったりも特にはないです。ただ、本当にこんな課長(誰



も私のことを知らないのだから書き様ですが)って野放しにされていいんでしようか。ノーブレイクノーエラーがいい例えでしようか。この世の中って最近だけた方向に向かっていると思うんです。

他にも「鬱」。以前からライフ・クロッシング(2022年秋号)をご覧頂いている方はお分かりの人がいるかもしれません。私の母親は鬱で自殺をしました。それはもう長年、家族も本人も辛い思いをしました。母親は責任感の強い人だったので仕事はこなし、

一方では家で引き籠る。最近よく聞く現代鬱。職場では鬱になって自宅では元気、旅行にも行け、趣味も堪能できる。私の周りにも麻雀をしてい

る女性の方で、ズーッと鬱になりながら仕事を休職して、雀荘で働いてお酒も飲んでと日々を過ごしている人がいます。

私が古い人間なのでしょう。現代の働く人って甘えが多いと思うんです。

そりゃあ日本は廃れるし、アメリカの企業に時価総額の大きさは負けますよ。だって向上心を持って努力しながら働いている人が明らかに減っていますもの。

課長の話に戻りますが、この人の部下になって何か成長できると思いません。強いて言うなら役員に媚びまくるその態度くらいでしようか。真

似たくもないですが。

私は上場会社という社員数も多い組織で働いています。実家は小さな会社を営んでいます。

近頃父親の会社について勉強する日が多くなってきたのですが、そんな風に働いている人はいません。

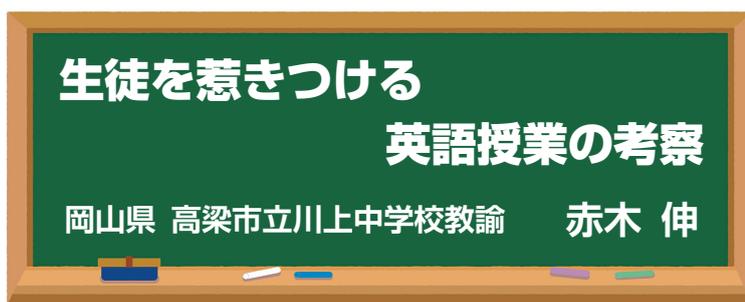
一人一人の社員が父親を慕ってがむしゃらに一生懸命に働いている中、日本を代表するくらいの金融機関がこんなことでもいいのか。

日本の将来に毎日心配になっています。

皆さんの周りにはそういう方っていらっしやいますか？ いるのであればそれを変えるためにどのようなことを行っているか、私に教えてください。



久しぶりの投稿は、仕事に悲観的になってきた32歳女性の愚痴みたいなお話でした。皆さんの自分を見つめるきっかけになれば幸いです。



教職に就いてから40年、私は英語教育に携わり続けてきました。今、この旅も終わりに近づいています。英語を教えることは今なお私の生きがいであり、最も楽しいことのひとつです。これまで生徒たちと共に笑い、わくわくしながら取り組んだ指導について、少し振り返ってみたいと思います。

英語を教えることは、自身の生き方や価値観を見つ

め直す機会でもありました。30年ほど前、オーストラリアでのホームステイでは、ホストマザーの優しさに触れ、楽しい時間を過ごせましたが、特に苦痛だったのは夕食後に家族全員で見るホームドラマの時間でした。会話やジョークをほとんど理解できず、皆が笑う中で孤立感を味わった私は、疲れて早々に自室に戻ることが常だったのです。

ある晩、ホストマザーが「私たちと過ごすのが嫌いなもの？」と尋ねてきました。私は「No, I don't」と答えましたが、彼女の表情が険しくなり、そこで自分の答えが間違っていたことに気づきました。英語では相手の質問に関係なく、「Yes」または「No」で自分の意思を明確に伝えることが重要だと、この経験から学びました。それ以来、どんなに疲れていても、家族と過ごす時間を大切にしよう心がけました。

また、ある日、好きな作家について話した際、「私の好きな作家はシドニー・シエルドンです」と伝えたのです

が、発音が悪く何度言っても理解してもらえませんでした。泣きそうな気持ちをごらえながら紙に名前を書いてようやく通じたときの屈辱感は、今でも忘れられません。どんなに簡単な単語でも、発音が正確でなければ伝わらないことを痛感した出来事でした。



赤木先生の授業風景～生徒撮影

一方、日本の絵本を幼稚園児に英語で読み聞かせたときのことです。「うさぎは泥船を作った (a rabbit made a boat made of mud.)」と話した際、4歳の子どもに「Mad instead of mud」と発音を指摘され、ついカッとなって「Shut up!」と言ってしまった。子どもたちは「悪い言葉だよね?」と囁き合いました。このときは「Be quiet!」と言うべきだったと

反省し、適切な表現を選ぶことの大切さを学びました。

また、オーストラリアの高校で日本語の授業を訪問した際、学生たちが広島原爆記念日に向けて千羽鶴を折っている姿を見て感心し、私も手伝いたいと申し出ました。しかし、鶴の折り方を知らなかった私は、オーストラリア人の高校生に教えてもらうことに。西洋文化にはわかりづらく、日本文化を深く理解してこなかった自分を恥ずかしく感じ、英語教育の本質について考えさせられました。英語教育とは、単に言語を教えるだけでなく、互いの文化を理解し、言語の背景にある価値観を学び合うことだと強く感じた瞬間でした。

英語教育を振り返ると、現在の教育には「英語が使える日本人の育成」と「受験英語」という二つのスタンダードがあると感じます。どちらも重要であり、バランスを保ちながら進めることが求められます。なぜなら、英語がコミュニケーションの手段として機能しないと、生徒たちは英語を学ぶ意欲を失ってしまうか

らです。英語を学ぶことは、単に知識を身につけるのではなく、人と関わり、互いに理解し合うための手段であることが必要だと考えています。

実際の授業では、一方的な講義に終わらず、学んだ表現を使う場を提供することになります。例えば、「おすすめの日トスポットを紹介し、デートの終わりに告白をする」というシチュエーションを設定し、生徒たちが学んだ表現を使って自己表現をする活動を行っています。このような参加型の授業を通じて、生徒たちは英語を「自分の言葉」として使う楽しさを体験し、表現力を伸ばしていくことができます。



これからも、生徒たちと共に英語を学び、共に成長し続けたいと思います。英語を教えることを通じて、私自身もまた多くのことを学び続けているのです。

## 居場所

山中登代子

人にはおとなにも子どもにも自分の居場所が必要である。私の居場所は、我が家の食卓である。朝食後、コーヒを飲みながら朝刊を広げる。そこが一番落ち着く。

東側の出窓から光も風も入って来る。テレビも見られる。今まで住んだ家は、家の真ん中が食堂兼居間になっていて、テーブルとソファを置いていた。そこでは落ち着けなかった。

子どもというのは、押し入れや、机の下、箆笥の間など、部屋の隅の狭い空間を好む習性があるようだ。本を読んでいたかと思うと、いつの間にか寝ていた。安心出来る場所なのだろう。

私の中学時代、自分の部屋が欲しかった。物置のような所に、お年玉を貯めて買った机を持ち込んだ。冬は暖房もなく寒かったが、とにかく一人になりたかった。

最近出来た大きな図書館には、隅っこを好む人用に、狭い空間があり、そこに入り込

んで本を読むことが出来るという。喫茶店の方が落ち着くという人や、皆それぞれ違うようだ。

居場所のない若者が、歌舞伎町のトー横と呼ばれる場所に集まっているという。一時、コンビニの周りに座り込んでいた中高生の姿を見かけなくなった。どこに行っているのだろうか。誰にも、暖かい帰る場所があつて欲しい。



人間ばかりでなく動植物も夫々身を守るための居場所を探している。植物も定位置があるようで、あちこち動かすと花を咲かせないという。自己主張している。

狭い我が家だが、家族にとつて居心地のよい居場所でありたいと思う。



## 余録

当誌は素人集団により、資金も組織もないグループで発行されています。かつて『乱れうちかわら版』という名で出発しました。今、当時の本誌を読むと自己満足と言

か、幼さと言うか、小さい世界で赤面の思いです。この10年はお陰様で自分達の能力以上のものを世に出せていると自画自賛しています。多才な執筆者から寄稿してもらえようになりました。時々「色々な方面の方はどのように見つけて来るのか？」と嬉しい質問も頂きます。著者とキャッチボールで苦労した作品もありました。中にはルー卜の方からの有難い紹介もあり

ります。

ある時「社中の方から書いてみてはと言われたので」と送られて来た原稿の話。その原稿を編集部のある者は不適と反対し、数名の関係者の意見を求めてやっとOKとした原稿もありました。

また、著名な学者さんを紹介していただき原稿を頂きました。編集部としてはかつてない程困惑して協議しました。ある意味俗にいう過激な内容だった。もしかしたら右派からの非難攻撃も覚悟しなければいけないかも知れない。我々はこの手の言論の自由は日本には無いと常々思っていたので気持ちの一部では挑戦してみたいという気持ちもありました。でもそれ以上に当誌が負う傷も大きくなる

かも知れない、との危惧もあつた。しかし、寄稿文は学術的そのもので我々が世に問う流儀と余りにも違う、我々は研究誌ではない、その意味で異質で不適と判断し某学者に掲載の断念をお伝えしました。これほど心苦しい思いをした作品はかつてありませんでした。先生からは「また、何か別な機会があれば書かせていただこう」との返信でホッとしました。

こうしてさまざまな紆余曲折を経て、この冊子をお届けしています。我々の思いが読み手の皆様に伝わりますよう。およその当誌の発行の趣旨、方向を理解された上の投稿はどなたからでも歓迎していません。お問い合わせください。

松平容保の亡霊？など、非常に多彩な人々による投稿で、客観的に編集しなければいけない立場ながら、大いに領きながら拝読しております。

私的ではありますが、もっとも私が感銘を受けた作品は、奥寺大輔さんの「歴史と悲しみは共に疾走する」です。終

## 編集後記

今号も力作が集まりました。世界各地を飛び回る旅行マニア、40年間英語教育一筋に携わってきた中学教師、金融機関に勤めるキャリアウーマン、映画プロデューサー、やざま秀次郎氏、元会津藩主・

あらためて「質の高い冊子になったなあ」と思う次第です。

# 立憲躍進にも 危機感しかない

在関西議員秘書

三つの補欠選挙、都知事選挙、党の代表選挙、そして衆議院選挙。大型選挙が続いたこの半年、ようやく一息つくことができた。

とはいえ早くも「解散は早い」「来年の予算成立後に石破総理が辞任か」「公明党との協力関係を反故にしてダブルを打つのでは」と、永田町では疑心暗鬼が高まっている。立憲民主党は躍進を遂げた。

衆議院の議席は98から148へ。1.5倍の50増だ。でも、自分たちの訴えが国民から支持を受けたという実感はない。むしろ危機感しかない。

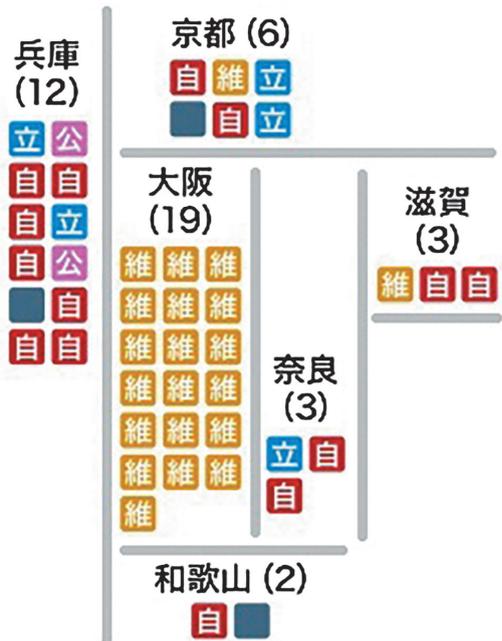
比例票の積み増しが7万票（0.6%増）に過ぎず、ざっくり「100万票で1議席」といわれる参議院選挙の比例代表では、議席増が見込めないことも大きい。小選挙区の「勝利」は、消極的選択に過ぎなかったということだ。

参議院でねじれをつくることも、政権交代の早道であることは明らかだ。しかし、次

の参院選で躍進する可能性がある

あるのは、国民民主党やれいわといった「ワニイッシュユー政党」の可能性が高い。野党第一党として政権交代に挑むがゆえに、全方位の主張にならざるをえない立憲民主党は埋没する可能性すらある。

また、立憲の議席増は地域差が大きい。西日本、とくに大阪はまるで別世界だった。NHK選挙特番の日本地図で、大阪は維新の「まっ黄色」（左図）だったことに違和感を覚えた人は多いだろう。し



NHK選挙特設サイトから～  
大阪19小選挙区は全部維新が当選

かしこれは想定内だった。

維新への逆風はあった。斎藤・前兵庫県知事の「おねだり政治」に対する嫌悪感は、県境を超えて影響を与えた。

ただ、維新の看板政策である「万博の是非」を問う町の声は弱かった。賛成でも反対でもない、「どっちでもいい」という空気が主だった。

この10年、維新に逆風が吹くたび大阪を覆うのは「お灸をすえる」という感覚だ。振り子のように維新への支持は戻っていく。その分、自民党の凋落は顕著だった。

告示日の前後、あちこちから回ってくる出所不透明な各種世論調査では、自民党に対し過度に低い数字が出ていた。

記者に聞いたところ、「いま

投票先を聞かれて『自民党』と答える人は少ないのでは」という分析だった。実際には投票するつもりの人も、口に出せないのだろう。したがって、選挙戦が進むに連れ、そうはいっても自民の支持が固まっていくなのだと予想された。実際に選挙中盤では、「もう裏

金問題はええんちゃう。未来の話をしようや」という空気に変化し始めていたと思う。ところが例の「非公認二千万円問題」が、自民党に止めを

さした。問題は立憲民主党が自民批判の受け皿になれなかったことだ。むしろ維新に票

が流れるか、「寝て」しまった。大阪市内、とくに維新と公明が争った一部の選挙区以外では、そもそも盛り上がり

に欠けた。維新の基本戦略は「陣取り合戦」である。緑のジャンパーをきた数十人の一群が、選挙区の一等地（主要駅など）を朝から晩までジャックする。早いもの勝ちである以上他陣営は文句が言えないし、そもそも12時間ぶっ続けで広範囲を占拠する体力はない。維新は、狙いを定めた選挙区に自治体議員

（ときには首長も！）たちを

送り込み、交代しながら大声でピラをまき続ける。これで一気に勢いをつけ、形勢を逆転してきた。ただ今回、激戦区といわれるところでもおなじみの光景は少なかったと聞く。維新の動員力はあきらかに陰っていた。

しかし結果は「まっ黄色」である。盛り上がりや欠いた選挙では、「投票にいかない」と「まっ黄色」という層を掘り起こすことはできなかった。これが10数年、大阪という地域で

「与党」であり続けた「成果」なのだ。今回選挙権を得た大阪の若者の多くが、「初めてテレビで見た政治家」は橋下元

府知事なのだから。この状況をひっくり返すのは、こちらも10年かけた戦略が必要だろう。

権力が分散するまま迎える国会は、かつてないほど不安定となるはずだ。かつてのように入連立や与野党の分断工作をもくろむ「仕掛け人」もない。まず立憲民主党は、目先の選挙協力にとらわれることなく、「目指す社会像」の柱をたてるべきだろう。そして、数合わせではない政権交代を目指したい。